

令和6年2月5日

大雪と大雨に対する技術対策

県北農林事務所経営・普及部門

2024年02月05日10時31分、気象庁の発表によりますと、茨城県北部に、大雪注意報、風雪注意報、波浪注意報が出ており、大雪については5日夜のはじめ頃までに警報に切り替える可能性が高いです。

大雪と大雨による被害に対する技術対策資料をまとめましたので、今後も気象状況を確認し、作物及び施設の被害軽減に向けた対策をお願いします。

パイプハウス及び鉄骨ハウス等

雪害の対策として以下の点を踏まえ、ハウス及びハウス内作物の保護と作業の安全確保対策を行う。

1 事前準備

(共通)

- 降雪が予想される場合は、屋根被覆資材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物がないかを事前に点検し、防風ネットや外部遮光資材等は忘れずに撤去する。
- 外張り被覆資材のたるみや破れは、雪の滑落を阻害するので、降雪前に補修する。また、パイプジョイントや筋かい、補強パイプの外れや緩みを確認し、異常が確認された場合は、速やかに補修する。さらに、ハウスバンドのねじれ・緩みを修正しておく。
- 暖房機を利用している場合には、燃油を満たしておくとともに、電源、配線等についても、正常に機能するか確認を行う。また、非常用発電機を所有している場合には、暴風雪等による停電に備え、発電機の試運転等により動作確認を行う。

<事後対策>

1. 被害程度が大きい(ハウス全壊や半壊)場合は、融雪後、安全を十分に確保してから被覆資材・骨材を撤去し、修復を行なう。
2. 被害程度が軽微(被覆資材の破損等)で、作物の栽培が継続可能な場合は、できるだけ早期に施設の破損の補修を行ない、温度確保に努める。
3. 施設内に融雪水や雨水が浸水した場合は、直ちに排水を図り、湿度の低下に努める。また、根傷みにより草勢が低下しやすくなるため、摘果や早めの収穫で着果負担を軽減するとともに、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図る。
4. 施設内が多湿となり病害が発生しやすい環境となるため、低温障害に留意しながら換気を行い、損傷した茎葉の除去や薬剤散布など、防除対策に努める。
5. 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植替えや再播種を行い、被害の軽減に努める。

施設野菜 (イチゴ、キュウリ、ピーマン、チンゲンサイ、ニラ、コマツナ等)

果菜類では、開花期から幼果期の耐寒性が低いため、不受精や奇形果などの障害を生じやすく、他の時期の低温遭遇は生長点の芯止まりなどの生理障害を生じる場合が多い。

葉物類では、急激な低温遭遇で生育停滞や茎葉の枯死などの障害を生じる。

<事前対策>

1. 夕方は早めに密閉し、可能な限り内張り、トンネル、及びべたがけ資材を活用して、施設内の最低気温をトマト、イチゴは5℃程度、キュウリ、ナス、スイカ、メロン、ピーマンは10℃程度を目安に確保する。

露地野菜 (レタス、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー等)

冬春野菜の多くは、耐寒性が強く、生育期に寒害を受けることは少ない。しかし、生育の進んだ結球中の葉菜類などは耐寒性が低下するので、細胞間隙や細胞質の水分が凍結に至ると被害を生じる。

<事前対策>

1. トンネル内にべたがけ資材を使用すると1～2℃程度高く保温できる。
べたがけ用資材 (例) : ベタロン、バロン愛菜、パスライト、パオパオ等

<事後対策>

1. トンネル栽培のほ場では、早期に除雪を行なう。
2. 雪解け後は、風雨により損傷した茎葉から病害の発生が懸念されるので薬剤散布等の防除対策に努める。
3. 排水に努め、湿害に注意する。また、根傷みにより草勢が低下しやすくなるため、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図る。

花き

○施設花き全般

<事後対策>

1. 被害程度が大きい(ハウス全壊や半壊)場合は、融雪後、安全を十分に確保してから被覆資材・骨材を撤去し、修復を行なう。
2. 被害程度が軽微(被覆資材の破損等)で、作物の栽培が継続可能な場合は、できるだけ早期に施設の破損の補修を行ない、温度確保に努める。
3. 施設内に融雪水や雨水が浸水した場合は、直ちに排水を図り、湿度の低下に努める。また、根傷みにより草勢が低下しやすくなるため、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図る。
4. 病害の発生が懸念されるので、損傷した茎葉の除去や薬剤散布など、防除対策に努める。
5. 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植替えや再播種を行い、被害の軽減に努める。

果 樹

<事前対策>

- 立ち木栽培等で積雪による骨格枝の折損、果樹棚の倒壊が想定される場合、支柱などを設置して補強する。なお、多目的防災網展張後の開花期前後に降雪が予想された場合には、再度収納して倒壊を避けることも検討する。

<降雪中の対策>

- 安全が確保できる範囲で、樹園地を見回り、除雪を行う。園芸用ハウスを使用している場合は、ハウス内の温度を高め、積雪の自然滑落を促進するほか、ハウスの屋根の補強材や支柱等を設置する。
- 安全が確保できる範囲で、屋根の雪下ろしやハウス周辺の除雪を行う。ハウスの破損、倒壊等が生じた場合には、安全に留意しつつ、早急に修復を行いハウス内の温度確保を図る。

<降雪後の対策>

- 積雪が多かった場合、数日間の晴天が見込まれる時期を見計らい、融雪剤を散布する。
- 安全の確保に留意しつつ、樹園地を見回り被害状況を確認し、樹体の損傷の程度に応じて、ボルト等を使っての損傷部の癒合や、改植を検討する。
- 損傷した樹体は病虫害の被害を受けやすいので、発生動向に十分注意し、適切な防除対策を行う。

麦

<事後対策>

1. 浸水や冠水した圃場は、排水路を確保するなど、直ちに排水に努める。